

な、な、な、なんと！あの ATAC カンファレンスや自閉症カンファレンスでも有名な香川大学の坂井聡先生がサント物語の為にコラムをなんと連載していただける事になりましたっ！！

あの天下の坂井先生に・・・いやぁ～感動です！！

皆さん！これは絶対に読んどきましょうっ！絶対に損はさせませんよ！！

第1回『コミュニケーション支援を考える前に』

坂井 聡 先生コラム

コミュニケーション支援を考える前に、「自立」についてどのように考えるのかを明らかにしておきたいと思います。私は、コミュニケーションできるようになることを支援することは、「自立」を支えるためには欠くことができないことだと考えているからです。

さて、みなさんは、「自立」という言葉を聞いてどのようなイメージを持っているのでしょうか？

ある人は職業について働くようになったら「自立」したと言うかもしれません。ある人は自分でいろいろなことを決めることができたらそれを「自立」と考えるかもしれません。どちらも何となくわかりますが、それが「自立」かと問われると、それだけではないようにも思います。「自立」ということがよくわからないままに、その言葉があいまいに使われているから、その時々によって意味が変わってしまっているのかもしれません。また、「自立」という言葉を聞くと、どのような意味で使われているのかもはっきりしないことが多いのではないかと思います。「自立」という言葉を使っている人自身も、「自立」という言葉をどのような意味で使っているのかをあまり深く考えていないのではないかと思います。

しかし、ここでは「自立」という言葉をあいまいにしたまま話を進めることはできません。なぜならば、コミュニケーション支援と「自立」は切っても切れない関係にあると思うからです。ですから最初に、「自立」をどのように考えるのかを明らかにしておきたいと思います。「自立」ということばを考える上で参考になるのが、社会福祉基礎構造改革についての骨子です。社会福祉基礎構造改革の骨子と聞いただけで、何か難しいことが書いてありそうなので、敬遠してしまう人もいるかもしれません。ですが、ここには、「自立」について考える際のヒントが、とてもわかりやすく書かれているのです。ちょっと紹介しておきましょう。

このなかでは、社会福祉の理念について、「個人が尊厳を持ってその人らしい自立した生活が送れるよう支える」というように書かれているのです。

ここに書かれていることはどのようなことなのかその意味を考えてみましょう。ここでは、その人が生きていくことを支えるだけでは、「自立」を支えたことにはならないということが書かれているのです。「自立」を支えるためには、生きていくことを支えるだけでなく、尊厳をもって生きることができるよう支えなければならないということなのです。

対象となるその人が尊厳をもって生きていくことを支えるためには、何が必要なのでしょう？尊厳をもって生きるためには、周囲の人がその人が存在すること自体をすばらしいと認める必要があります。周囲の人がその人の存在を認めないところには、尊厳は存在しないからです。このように考えていくと、「自立」ということばのもつ意味が少し理解できてるのではないのでしょうか。周囲の人に認められながら、尊厳ある人としてその人らしく生きるということなのです。

障がいのある人を認めるということは、その人のありのままを認めるということです。その人と付き合っていくということです。その人自身も自分のもっている障がいと付き合っていくということです。それぞれが障がいとうまく付き合っていくことができたときに、尊厳をもって生きることを支えることができるようになるのではないかと思います。人と人とが付き合っていくためには、いろいろな場面でコミュニケーションする必要があります。コミュニケーションをとることができないと、付き合っていくことができないからです。お互いが意思を伝え合うことができ始めて、対等な立場で付き合っていくことができるということです。コミュニケーションをとることができるようになることは、とても重要なことなのです。

次回からは、コミュニケーションをとることができる環境とはどのような環境なのか、そんなことも考えながら話題を提供していきたいと思います。しばらくの間お付き合いください。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞 (著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会)

自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンパワメント研究所) など